

2026 年度

愛知学院大学大学院

経済学研究科

経済学専攻

社会人一般入学試験問題

解答および解答例・出題の意図

博士前期課程 春季入学試験

社会人入試（2026年1月24日実施）

【専修科目】

租税制度論

〈採点時の評価ポイント〉

①～④のうち2問選択。

①租税の重要な原則の理解、その原則から見ると日本の税制はどのように判断できるか、それに関して「一億円の壁」「租税特別措置」「103万円の壁」など具体的な事例を取り上げて論じていることを評価する。

②税制の役割（機能）の特徴をまとめ、あわせて日本の租税制度は十分機能を果たしているのか、現在の借金財政と税収の関係、累進構造と再分配の関係、不平等の是正、景気の動向に対応した租税制度の改正などについて記述をしていることを求める

③憲法に書かれている租税法律主義の理解力、すなわち「課税要件法定主義」「課税要件明確主義」「合法性の原則」「手続的保障原則」について要領よくまとめているかどうかを評価する。

④歳出額と税収との乖離をどのようにとらえたか、バブル景気、金融危機やリーマンショックなどの事象、当時の経済状況、好不況などに関連させ、さらに、今後の増税の方向性について考察した記述があることを評価する。

〈出題の意図〉

税法の重要な原則、租税に備わっている機能からみて、現在の日本の租税制度と財政状況の問題点を把握しておくことが求められる。そのため、今後研究を進めるにあたって必要となる知識、基本的認識を問うこととした。